


会 議 録

会議の名称	第3回 戸田市自治基本条例推進委員会
開催日時	平成28年4月26日(火) 午後7時00分～9時00分
開催場所	戸田市役所 大会議室A
委員氏名	<p>◎□ 大山 宣治 ○□ 横山 誠 □ 宮崎 快</p> <p>□ 千葉 修平 □ 西久保 裕康 □ 柴田 忠雄</p> <p>□ 丸山 利男 □ 播 義也 ■ 市川 悦夫</p> <p>□ 武内 利行 □ 菅原 光正 ■ 浦田 達也</p> <p>□ 伊藤 寛幸 □ 遠藤 英樹 ■ 細田 昌孝</p> <p>□ 川上 実雪 □ 廣井 佑磨 □ 松下 啓一</p> <p style="text-align: right;">(◎委員長 ○副委員長)</p> <p style="text-align: right;">(□出席 ■欠席)</p>
事務局	栗原部長 渡辺次長 後藤課長 石原主幹 矢作副主幹 元谷主事 大内主事補
議 題	(1) 自治基本条例に関する報告 (2) 平成28年度事業について (3) 条例の周知啓発について (4) その他
会議の経過	別紙のとおり
会議資料	(1) 第3回会議資料 (2) 協働に関する職員アンケート 単純集計 (3) 自治基本条例マンガパンフレット (4) 第2回グループワーク 結果 (5) グループワーク グループ分け表
議事録確定	平成28年5月17日 委員長 大山宣治 

(会議の経過)

発言者	議題・発言内容・決定事項
事務局	<p>1 開会</p> <p>2 議事</p> <p>傍聴希望者が1名いたため、議長により入場が許可された。</p> <p><u>(1) 自治基本条例に関する報告について</u></p> <p>① <u>協働に関する職員アンケートの結果について</u> <u>概要について</u></p> <p>全職員（910人）を対象に実施。 回答数は584件、回収率は64.2% 職員の「自治基本条例」や「協働」に対する認識や考えの把握と、先だって実施した「市民協働意識調査」の結果と比較することで、今後の基礎資料とすることを目的とする。</p> <p><u>結果について（全体を通して注意すべき項目を中心に説明）</u></p> <ul style="list-style-type: none">地域活動団体・市民活動団体との関わり 「関わったことがある」（49.5%）と「関わったことがない」（50.5%）の割合がほぼ同じ5割程度 関わったことで良かった点は「相手方の考えや思いを知ることができた」（66.8%）、「お互いの立場を理解し合えた」（55.4%）、「相手方との連携が取りやすくなった」（47.1%）の回答数が多く、それに対して「特にない」（3.8%）の回答数が少なく、関わることでのメリットを職員も体感していると考えられる。 関わったことで苦労した点は、「お互いの意識や熱意に大きなギャップがあった」（37.7%）、「行政単独で行うより時間と手間がかかった」（36.3%）の回答が多かった。また、苦労したことが「特にない」（28.4%）の回答が多いことから、関わることでのメリットを感じていることが分かる。自治基本条例に関して 「読んだことがない」が27.7%という結果になっている。今後、この割合を0%にしていかななくてはならない。 条例の制定によって業務上での変化を感じている職員が約20%となっている。 反対に業務上での変化を感じていない職員（約75%）のうち、38.6%が「今の業務には関係ないため」と回答している。こちらについては、「協働」に対する認識不足の部分も考えられるため、今後更なる職員の意識向上を進めていく必要がある。「協働」に関して 「色々な人と関わったり、意見を聞いたりすることができる」というようなプラスのイメージの回答が75%以上（77.7%）、

	<p>反対に「どのように取り組むべきか、また取組んだ成果や内容が分かりにくい」という回答が20%弱(19.7%)となっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「協働のまちづくり」に関して <ul style="list-style-type: none"> 進めるうえでの課題については、「人的・時間的余裕がない」(46.2%)、「職員の理解が不足している」(39.6%)、「市民の理解が不足している」(39.6%)、「行政と市民の相互理解が不足している」(38.5%)の回答が多くなっている。 市民に求めるものについては、「市民同士の連携によって、地域課題を自分たちで解決する意識を持つ」(50.3%)、「地域の交流を深め、助け合える関係をつくる」(47.4%)、「まちづくりの一員としての意識を持つ」(41.4%)が4割を超えており、行政がすべきことについては、「市民と行政が話しやすい環境づくり」(52.1%)、「市民への情報提供・市民との情報共有」(50.0%)が4割を超えている。 <p>② 自治基本条例マンガパンフレットについて</p> <p>子どもをはじめ多くの市民に条例の考え方を知ってもらうためにマンガパンフレットを作成した。条例の文言等はあえて使わずに、あくまでストーリーの中に条例の理念を散りばめた形とした。平成27年度は、町会回覧と市内公共施設への配布を行った。</p>
委員長	今の説明を受けて、何か質問等はあるか。
委員	マンガの題材については、なぜこの題材を選んだのか。具体的な事例があり、それを参考としたのか。
事務局	<p>子どもでも身近に感じてもらえるような内容にしたいという思いから、誰もが日々通っている“交差点”を題材とした物語を創作した。</p> <p>ストーリーの中で、身近な課題を地域の住民で解決する、市民・議会・行政がそれぞれの役割を果たしてまちづくりを進めていく、といった要素を組み込んだ形で作成した。</p>
委員	<p>このマンガパンフレットは、内容そのものよりも、今後これを活かしてどのように条例の周知啓発をしていくのか、その手法が大切になると思われる。</p> <p>また、今回の職員アンケートの結果について、現段階では結果報告に過ぎない。この結果をもって、委員会でどのようなことを検討していくのか、というような考察・提案をしていく必要がある。</p>
事務局	今回は単純集計の結果を報告させていただいた。この結果を委員の皆さまに見ていただき、「ここについてもっと詳しく分析してほしい」というような意見をいただければ対応させていただきたい。
委員	市職員対象のアンケートとして、64.2%という回答率は非常に低い。

	最低でも 90%ぐらいであってほしい。
事務局	今回のアンケートは職員ポータルを使った形で実施をさせていただいた。職員によっては一人一台パソコンを持っていない、調理士や保育士のように職員ポータルを日常的に見る習慣のない、という環境にある職員がいることも回答率が低い一因になっていると思われる。今後改善の方法を模索していきたい。
委員	前回、「市民意識調査」の報告があり、今回は「職員アンケート」の報告をいただいたので、今度は「議会」のアンケートを実施してはどうか。自治基本条例で挙げられている3者（市民・議会・行政）すべての調査を行うことで、今後の参考になると思う。
委員	実施できるように議会にも働きかけていきたい。
事務局	<p>(2) 平成28年度事業について</p> <p>平成28年度事業について、第3回会議資料により説明 ・スケジュール ・実施予定事業 ・予算</p>
事務局	<p>(3) 条例の周知啓発について</p> <p>自治基本条例フォーラムの開催内容を中心に、今後における周知啓発方法について、今回もグループワークを行いたい。 (前回の検討内容について、まとめたものを別紙で配布) ここからの進行は、今回も松下委員にお願いしたい。</p>
松下委員	<p>グループワークに入る前に事務局に確認したい。 アイデアを考えるに当たり、今年度の予算についてどこまで考慮した方がよいのか。また、予算に当てはめる形でアイデアを出した方がよいのか、確認したい。</p>
事務局	資料に記載した予算は、情報提供のかたちとして示したものである。まずは、予算に縛られることなくアイデアを出していただきたい。フォーラム等の開催時期や会場についても現状での案なので、このグループワークで考えていただき、その中からできる範囲で調整をしていきたい。
松下委員	<p>それでは、グループワークに入ってください。 次の3点について話し合い、最後にグループごとに発表する。</p> <p>① フォーラムのアイデア ② 条例のPR方法 ③ その他に「これはおもしろい」、「来年度やったほうがよい」というもの</p> <p>(各グループで討論)</p>

松下委員	<p>時間となったので、各グループで発表をお願いする。</p>
委員	<p><u>(1グループ目の発表)</u></p> <p>① ・条例に親しみを持ってもらうために、キャッチフレーズを公募する。 ・今ある市内で協働を実践している事例に焦点を当てる。</p> <p>② ・町会・自治会に地道に周知をしていく。 ・家族で参加できるようなイベントの実施。</p> <p>③ ・成功事例のある自治体への視察。 (例：鯖江市) ・傍聴者など委員以外の人も自由に意見を言える場を作る。</p>
委員	<p><u>(2グループ目の発表)</u></p> <p>① ・フォーラムで条例を題材とした劇をする。 (事例：米子市) →言葉ではなく、分かりやすい形で表現する。 ・ディスカッションやワークショップといった体験型の内容。</p> <p>② ・具体的な事例をSNSなどを活用して話題性を出す。</p> <p>③ ・他市の成功事例よりも戸田市や近隣市における事例に注目したほうが良い。 ・市内で年に1回ではなく、各地域で小さなイベントを実施する。 ・参加者がまちを歩いて一緒にまちの問題点に気付いてもらい、それを解決するために条例を活用するということを理解してもらう。 →具体的には、大人数ではできないのでテーマ別に少人数での取り組みとする。 →すでにこの取り組みを行っている団体と一緒に実施すれば、効率的に実施でき、また条例のPRにもつながるのではないか。 ・「新旧住民」「若者と高齢者」「日本人と外国人」のように相対するカテゴリ同士での話し合いの場を設け、相互の理解促進を図る。</p>
委員	<p><u>(3グループ目の発表)</u></p> <p>フォーラムの実施自体にこだわるのではなく、その前段階の「協働をどう市内に広げていくべきか」を考えるべき。</p> <p>① ・子どもが自分が作りたいまちを創造する「夢のまち コンテスト」の報告会の場とする。 (事例：エンジョイスマイルさがみ・相模原市)</p> <p>② ・上記イベントに関する取組すべてがPRとなる。</p> <p>③ ・「夢のまち コンテスト」の実施。 →子どもが思い描く「夢のまち」を募集し、その中から選ばれたものを大人が本気で実現する、というイベント。 ・募集にあたっては、学校だけではなく、市内の商店にも働きかけていく。 ・出前講座などで、委員をはじめ積極的に地域に出向き、コンテス</p>

	<p>トに出場する子どもの親への教育をすることも必要ではないか。</p> <p><u>(まとめ)</u></p> <p>なかなか条例の推進には多くの人は集まらないが、活動している人の出番を作ることが必要である。自分の活動を感謝してもらい、応援してもらい、また、自分たちが参加してフォーラムを作り上げる、そのようなかたちが良いと思う。</p> <p>今日のグループワークで出たアイデアをまとめて、活かせるものを少しずつ形にしていけばよいのではないか。</p> <p><u>(4) その他</u></p> <p>次回の委員会の日程は、平成28年8月を予定している。</p> <p>マイナンバーについて、まだ提出されていない方は次回でも構わないのでご提出いただきたい。</p> <p>委員長・副委員長・事務局で話し合っていたき、次回の委員会までに、オフ会のような形で委員が集まれる機会を設けていただきたい。</p> <p>4 閉会</p>
--	--